

<高付加価値な地場産農産物の栽培、加工・販売に取り組む事例>

## 神子原米ブランドを活かし棚田保全に取り組む

### 1. 集落協定の概要

市町村・協定名	石川県羽咋市神子原協定			
協定面積 65.7ha	田 (100%)	畑	草地	採草放牧地
	米			
交付金額 1,379万円	個人配分			48%
	農業生産活動等の体制整備向け活動費			21%
	鳥獣害防止対策、水路・農道等維持管理 人件費			16%
	集落協定に基づく農用地の維持・管理 人件費			3%
	その他			12%
協定参加者	農業者 77人、非農業者 1人、生産組織 2、水利組合 3			開始:平成12年度

### 2. 制度取組の経緯

当集落は、法面の広い棚田が広がり、作業効率、収穫共に平地に比べ生産性が低く、農外収入で補填している状況であったが、本制度を活用して、耕作放棄の防止、機械・農作業の共同化、認定農業者への農地の集積による担い手育成及び地域特産品の生産、加工、販売による所得向上に取り組んできた。

### 3. 取組の内容

将来に渡って美しい棚田を守るため、当地域で栽培するコシヒカリのブランド化を図り、「神子原米」として販売し、好評を得ている。

活動の内容としては、協定参加者が協力して、農業用排水路の補修や林道の雪害からの復旧作業、耕作放棄地の解消のため草刈り及びバックホウを使用した雑木の抜根、用排水路等の維持補修作業を実施している。営農面では、認定農業者への農地の集積を進めるほか、平成19年には、市で整備した農産物直売施設において「神子原米」をはじめ農産物や農産加工品等の販売に取り組んでいるところである。

第3期対策からは、農道・水路改修の自己施工と引き続き農産加工品の販売に取り組む、集落ぐるみの活動を行っている。



【取り組みにより維持される棚田】



【直売施設で販売中の神子原米】

### [集落の将来像]

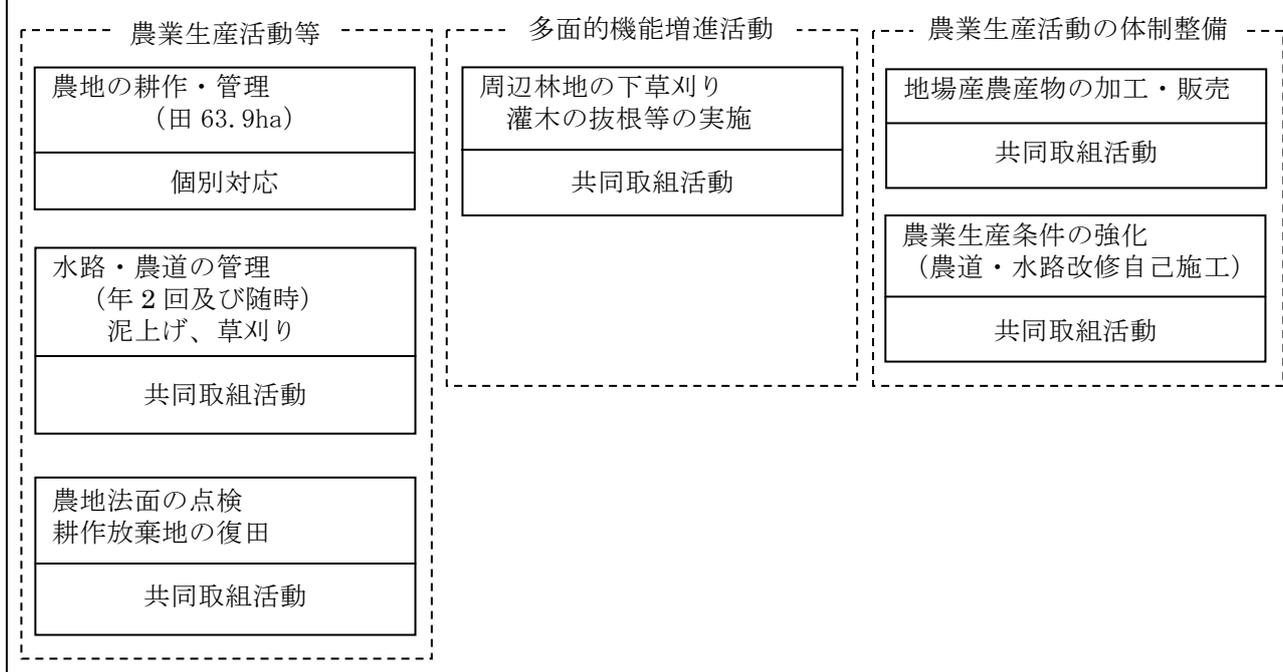
今後の家計に占める農外収入の減少と高齢化は、農業機械の更新にかかる負担が大きくなり、耕作放棄が懸念されることから、その発生を防止し、将来にわたって持続的な農業生産活動を可能とする体制を確立し、本集落の持つ多面的機能の確保等を図っていく。



### [将来像を実現するための活動目標]

- ・ 機械・施設・作業共同化による必要経費の削減
- ・ 作業一部受託による高齢者の営農継続の促進
- ・ 認定農業者の育成につながる農地の流動化による効率化と面積の拡大
- ・ 地域特産品の育成、加工、販売による収入の拡大
- ・ 高付加価値農産物の開発・生産により生活のできる農業の確立

### [活動内容]



## 4. 今後の課題等

第 2 期対策時には、豪雪により被害を被った用排水路、農林道等の修復を行ってきたが、山中にある「ため池」から集落入り口の取水口まで路程約 3 kmの用水路が老朽化しており、早急に整備、改修を図る必要がある。また、生産農家の減少による耕作地の維持管理について、集落の負担が大きくなっていることが課題となっている。

### [これまでの主な効果]

- 担い手農業者の育成・確保
  - ・ 認定農業者 1 名の育成及び農地集積
- ブランド米の生産・販売による所得向上
  - ・ ブランド米「神子原米」の品質向上に向けた研究会の実施
  - ・ 「神子原米」の販売強化のための広報活動の実施
  - ・ ブランドづくりに向けた棚田オーナー制度の実施 (H17~19)
- 農産物加工・販売による所得向上
  - ・ 農産物直売施設による農産物等の販売
  - ・ 農産物加工品の開発 (そば、クワイ等)